

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100037		
法人名	社会福祉法人 佐賀整肢学園		
事業所名	佐賀整肢学園 かんざき清流苑		
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴 2927番地2		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月2日	外部評価確定日	平成22年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周りは田園地帯で、敷地も全体で13,380㎡と広く、静かでゆったりとした所にあり、環境面からも生活支援をしていきたい。併設で特養ホームや居宅サービスも実施しており、情報の交換や研修などもスケールメリットで大いに可能であり、又災害や事故なども十分な協力体制がとれ安心である。このような環境の中で、ご利用者、ご家族、職員そして地域の方々の協力のもと「その人らしい生活の中から、自立へ向けて」生活の支援をさせて頂きたいと思っている。「共に笑顔で暮らします・共に健康で暮らします・共に地域で暮らします」と、グループホーム独自の理念をかがげ、職員一同心を同じくして「特別ではなくより普通の生活を求めて」支援出来るよう心がけている。日常的には、天気の良い日はできるだけ散歩へ行き、季節の風を感じて頂き、又、庭に咲いた季節の野花を職員が持ちよりホーム内に飾り、利用者、職員共に楽しんでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、広い敷地の中に、併設の介護老人福祉施設と隣接して建てられており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。事業所内は、木材を基調とした和風仕立ての設えで、家庭的な落ち着いた雰囲気である。また、所々に、職員が持ち寄った草花も飾られ心を和ませている。職員は、それぞれの利用者の残存機能を把握し、その力の発揮場面をできるだけ多く作り、満足感と笑顔のある、本人らしい日々が過せるように支援している。利用者が自ら、台所に入り、食事の準備に取組まれる様子も見られる。排泄の支援においては、利用者の心身への影響を考慮し、紙おむつや紙パンツは使用せず、布製下着の着用で支援している。事業所は、高校生や大学生、また、教師等の研修の場にもなっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、ホーム内にも掲示している。又毎朝、皆で唱和し共有、実践につなげている。	「共に笑顔で暮らします。共に健康で暮らします。共に地域で暮らします。」を理念に掲げ、毎朝、皆で唱和をし、また、会議の中でも理念の内容や意義等について話し合い、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域区長様と共に芋植えを行ったり、季節の行事、他施設の行事に参加したりしながら、婦人会や地元の方々との交流ができるよう努めている。又、月に1回職員にて近隣のゴミ拾いを行っている。	利用者と一緒に、市の歌祭りや文化祭等に出かけたり、併設の介護老人福祉施設の行事に参加し、婦人会や老人クラブのメンバー等と交流している。今年度は、地区の区長に来てもらい、利用者も一緒にさつま芋の植付けを行っている。職員は、毎月、近隣のゴミ拾いを実施している。	事業所の行事に地域の人達を招いたり、地域活動の情報を積極的に収集し、地域の一員として、益々の交流に取り組まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の所、地域の人々に向けての活かしは行っておらず、地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、事故等の報告、外部評価の報告を行い、意見をいただいている。	運営推進会議は、家族や地域の代表、行政の職員等の参加を得、2ヶ月に1回開催されている。会議では、運営の状況や事業等の報告、及び、外部評価の結果も伝え、課題等について話し合い運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて実情やサービスの取り組み等の報告や市が主催の「ケアネットかんざき」にも職員が参加し、情報等の交換等を行い、関係作りに努めている。	管理者は、町や地域包括支援センターの担当者とは、気軽に情報交換や相談ができる関係にあり、折に触れ、窓口にも出かけている。市が主催する勉強会(ケアネットかんざき)にも参加し、情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束は行っていない。又、日中は玄関が開くとチャイムが鳴る設備となっており、鍵をかけずに対応している。	職員は、身体拘束の内容や弊害について理解しており、拘束の無い支援に取り組んでいる。昼間、玄関は施錠されておらず自由に出入りができる。利用者の外出気配は職員の連携で見守っており、外出希望時には、引き止めることなく同行し見守っている。玄関には音センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や『ケアネットかんざき』にて高齢者虐待防止について学ぶ機会があり、出席した職員が、他の職員にも会議等にて伝達しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等において、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。現在の所、必要性や活用での話し合いは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入苑される前にすべての利用者や家族に契約書等により、十分説明し、理解をして頂き、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関内に意見箱を設置し、利用者、家族、職員がいつでも意見を出せる機会を設けている。	面会時や家族会の折には気軽に声をかけ、何でも言ってもらえるように配慮している。また、玄関には、外部の苦情受付窓口の明示と意見箱を設置している。意見や苦情等が出された場合には、法人内の苦情解決委員会で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行っている。施設長も毎日夜勤者の報告を直接聞き、意見の提案などを聞く機会を設けている。	管理者は、日常の業務の中や職員会議で職員からの意見や提案等を聞き、運営に反映している。職員は積極的に提案等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は毎日、個々の職員から報告を受け、各自の就労状況、メンタル面等、常に把握している。又、人事考課を行ったり、定期的な会議にて、職場環境を含めた内容を検討し、改善向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会にはできるだけ参加し、定例全体研修会時に発表する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている「ケアネットかんざき」に出席し、同業者との交流、意見交換を図りながら、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に施設見学をして頂き、本人より直接不安なことや困っている事などと言える雰囲気づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談は殆ど、本人以外の家族が多く、どのような事で困っているのか、不安に思う事、求めている事などを聞きながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム利用前のケアマネと共に、本人、家族が必要としている支援を検討し、他のサービスの利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者各個人の本人らしさとは何かを会議等で話し合い、食事の準備や片付け、洗濯物たたみ等職員と一緒にしながら、暮らしを共にすることを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事などの参加や協力を依頼し、楽しみを家族も共にしながら、一緒に本人を支えていけるように協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの美容室などへの外出の支援をしたり、友人等による面会は、日時を問わず受け入れている。	外出時には、利用者の以前の住まいや馴染みの神社に立ち寄り、行きつけの美容室と一緒にいくなどしている。また、本人の記憶の中にある馴染みの場所や人についての思い出話を聞くことも大切にしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立し易い利用者には、他の利用者との関わりを支援し、職員が適度に間に入りながら支えあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他のサービスへ移行しても、面会するなどして利用者や家族との関係をすぐ断ち切らないような関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に、本人や家族より情報(暮らし方、意向)を収集し、本人の思いの把握に努めている。	利用開始時には、本人や関係者から話を聞いて把握し、その後は、日々の会話の中で聴取している。意思の疎通が困難な場合には、家族に話を聞き本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービスの利用についての経過などを本人や家族又以前のサービス利用の職員から聞き、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を総合的に把握し、できる事、できない事を見極め、本人のペースで無理強いせずに、一日を過ごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を汲みながら介護計画をチームで検討し、意見やプランを作成している。必要に応じてセンター方式を使用し、詳細な情報収集に努めている。	本人および家族の希望や意向を確認すると共に、関係者で情報交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。見直し時には、評価を行い、きちんと記録に残している。なお、状態に変化が生じた時には、臨機応変に見直し、現状に添った計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等、個別に記録を記入し、また特に重要な事は、申し送りノートを作り、出勤時に必ず目を通し、情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居を希望されても、直ぐに受け入れできない場合など、本人や家族の状況により、ショートステイやデイサービスなどの支援を受けながら待って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働までは至っていないが、地域でのイベント(文化祭等)や隣のケアハウスの夏祭り等に参加して、楽しみの拡大に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に各個人のかかりつけ医を主治医として頂き、受診して頂いている。必要に応じて、受診時に職員も付き添い、状況の報告や、かかりつけ医からの指示を聞いている。	本人の以前からのかかりつけ医の受診がなされている。通院は、基本的に家族の付き添いとしているが、状況によっては職員も介助し、適切な診療が受けられるように支援している。事業所と医療機関との情報交換も密に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長や所属長が看護師であり、必要に応じ、相談行い、適切な受診等が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎朝、バイタルの測定、健康観察を行い、異常時の早期発見ができるよう努めている。利用者の入院時は、安心して治療できるよう、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、面会時等に話をする事はあるが、方針の十分な説明等は現在のところ取り組んでいない。	重度化や終末期の対応はしておらず、病院や併設施設に依頼するようにしている。また、本人や家族に対しては、事業所の方針の説明及び意思の確認等がなされていない。	本人や家族にとっては、重度化や終末期の対応は大きな不安材料ともなるので、早い段階から、事業所の方針をきちんと説明し、意思の確認をされることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員で共有している。又応急手当については、消防署からの指導を受け訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制、マニュアルの作成、避難訓練の実施(1回/月)を行い、災害時に備えている。	毎月、併設施設と合同や事業所単独での昼夜を想定した消火や避難訓練等を実施している。その内2回は、消防署の参加・協力も得ており、地元消防団との連携も図っている。敷地内に併設施設と合わせた避難場所を設けたり、食料や水、おむつ等の備蓄もしている。また、事業所内には、新たにスプリンクラーを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳保持に努めた言葉掛けや対応を心掛けている。又、職員全員に個人情報の取り扱いについて、誓約書を提出させている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけており、利用者の目線で、ゆつくりと丁寧な言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、本人の思いや希望を聞きながら、自己決定を促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしい暮らしを応援する為に、日頃から、利用者中心のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、パーマは本人の好みで行い、行事等の際は、本人の好みの服を選べるよう、声かけしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる事を活かしながら、利用者と職員と一緒に、食事の準備や片付けを行っている。又、行事や外出時においては、好みのものを一緒に作り、楽しんで食事ができるよう支援している。	利用者の力を活かし、食材の下ごしらえや味付け、盛り付け、配膳、食器洗い等を利用者と一緒に行っている。食事の時には、職員も一緒に同じ食事を食べ、楽しい雰囲気作りをしている。利用者の苦手な献立がある時には、別の物を準備し、食事を楽しんでもらえるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて記録を残しながら、一人一人の食事、水分の摂取量、好みの把握を行っている。又併設施設の栄養士から情報収集、相談等も行いながらバランスのとれた食事を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの促しを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中尿取りパットを使用されている方もありますが、布の下着を着用して頂き、不快感を少しでも軽減出来るようにしている。又トイレにてもてる力を利用しながら一人ひとりに合わせたできるだけ自然に近い排泄を支援している。	利用者の心身への影響を考慮し、紙おむつや紙パンツは使用せず、布製の着着による支援を行っており、約半数の方の排泄の自立にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ便秘に配慮した食材等を取り入れながらスムーズな排便ができるよう配慮している。又、毎日の散歩、体操等の実施、個々に応じて、ウォシュレットを使用しながら排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在、月、水、金の3回/週の実施であるが、入浴中はゆったりと本人と話せる機会を作り、昔話などをしながら入浴して頂いている。又要望等あれば、個々に応じた支援を行いたいと思っている。	基本的には月、水、金を入浴日としているが、希望等があれば他の日の入浴も可能である。浴槽内にはバスマットを設置し安全面にも配慮し、ゆっくりと寛いでもらえるように支援している。入浴を拒否される時には、時間をずらして声かけをしたり、清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じて(食後や入浴後など)休息出来るよう環境に配慮している。又夜間等において、眠れない方には、状況に応じて、職員も一緒に横になりながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のチェック表を作成し、一人ひとりの薬の目的や副作用に関する情報を貼付した物を薬と一緒に常におき、服薬の支援、症状等の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり生活歴や嗜好品等を本人、家族から聞き取り記録に残している。必要に応じて参考にしながら支援を行っている。又、併設施設との協働の行事へも随時参加して楽しみを拡大を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は行けない温泉などに他の利用者や家族と共に出かけられるよう支援している。	週に2日は、利用者と一緒に食材の購入に出かけている。気候の良い時期には、日常的に散歩をしたり、時には、ドライブもしている。また、家族も一緒に観劇や温泉に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、お金の所持をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の要望があればその都度電話をかけたり。友人などに手紙を出す際も、きちんと届くよう確認するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間など季節感を味わえる花や飾りなどを置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下及び食堂兼居間は木材を基調とした和風仕立ての設えで、明るさも丁度良く、家庭的な落ち着いた雰囲気である。玄関や居間、食卓の上等には、職員が持ち寄った草花を昔馴染みの瓶等に入れて飾り、季節感を表わしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士、食堂や自室で過ごして頂いたり、共用空間の中にも、一人になれる場所を設けたりしながら居場所作り心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れた家具や好みの物を置いたり、植物を育てるなど気持ちよく過ごせるよう支援している。又、家族の写真を飾るなどして、家族の愛情を感じながら過ごして頂いている。	職員は家族に対し、本人に馴染みのある品物の持込を勧めている。居室には、使い慣れた家具や化粧品、文具、家族の写真、テレビ、観葉植物、仏壇等があり、それぞれの利用者の生活を豊かにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にも手すりを設け、安全な環境作りに努めている。居室内にはすべてトイレがあり、持てる力を利用した自立支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない